

## 六浦の津と金沢流北条氏の地を楽しむ

～鎌倉殿と政子が鎌倉入部に感謝を捧げた～

2022.10.14 (金)

亀井 恵 記

初めての担当のうえ、朝からの小雨、不安いっぱい  
2022年10月14日(当初予定の13日が1日順延)は始  
まりました。金沢八景の駅前で、今回の探訪コース、金  
沢文庫での『運慶展 鎌倉幕府と三浦一族』、金沢流六  
浦の説明を終え、小雨上がりのなか、3班参加者総数 28  
名で出発しました。「瀬戸神社」は源頼朝、「琵琶島神社」  
は政子とかかわりの深い場所です。目の前まで海が迫  
り、航海の安全をも願ったことでしょう。



称名寺 浄土庭園

「瀬戸橋」を渡りながら、中世の地図を見、金沢八景の話等で、昔の六浦に思いをはせました。  
「明治憲法草創の碑」を見て、歩を進めました。頼朝が瀬戸神社の別当院として創建した浄願寺に  
始まる「龍華寺」では、初めて『まわり地蔵(家々を回ってご利益を与えてくれる地蔵)』のことを  
知りました。しかし、参加のお二人の方が「まわり地蔵」経験者で、興味深かったです。「薬王寺」  
は、源範頼(頼朝の弟)の別邸だった場所、彼の墓所もあります。

「称名寺」は、金沢流北条実時が亡母のため建立した持仏堂に始まります。赤門を入り、石畳(横  
浜市電廃止時譲り受けた石)を進み、仁王門、関東一大きいという仁王さま、頭がつかえそうにし  
ていました。その先には池、それにかかる反橋と平橋、金堂、りっぱなお寺です。実時の子、孫の  
代に、称名寺は繁栄します。鎌倉時代の絵図を見ると、七堂伽藍が整った大寺院で、各宗兼学の学  
山として繁栄し、東国一円に大きな影響を与えました。当時、どんなに豪華で活発に活動していた  
ことでしょう。

最後に「金沢文庫」で『運慶展』を見学しました。運慶作の『不動明王像』『毘沙門天像』など実  
物に接することができました。初めての担当、不慣れで拙い説明にお付き合いいただき、ありがと  
うございました。  
(参加者総数 28 名)